

支援事例

大規模展示会への出展で 名物中華の全国区を目指す

有限会社御園飯店

企業代表者名	加藤 光春
所在地	鯖江市
業種	飲食店経営
事業内容	中華料理店経営、冷凍食品の開発・製造・卸売

活用事業名 ふくいの県産品マッチング機会創出支援事業

事業活用までの経緯

同社が鯖江市で営業する「御園飯店」は、2022年に創業50年を迎えた中華料理店。町中華として地元客から強い支持を受け、着実に成長してきた。

一方、店舗経営のみでは成長に限界があるとも感じており、冷凍食品販売を新たな事業の柱にすることを決断。支援センターの補助金を活用して2019年、「スペ天」（炒飯仕様の天津飯）や「御園餃子」等の人気メニューの冷凍食品開発に着手し、県内外のスーパーや土産店を中心に、販売実績を少しずつ積み重ねた。

しかし、目標とするのは全国展開。更なる販路拡大に向け、国内最大規模の食品展示会「スーパーマーケット・トレードショー」（SMTS）へ支援センターが出展する福井県ブースに、2022年、2023年と連続参加した。



活用内容

会期中は、同社商品に興味を持つ全国のバイヤーが多く訪れ、試食を交えながら商談を行った。大手の食品製造・小売・商社等から商品に対する意見や提案をもらうなど、貴重な機会となった。見積やサンプルの依頼も複数受け、成約に向けて商談を継続している案件もある。

同社は、2022年秋に工場を新設して生産能力を増強。新商品開発も進め、2023年のSMTSでは県産小麦「ふくこむぎ」を使った豚まんの冷凍食品もPR。さらに、SMTSの他、支援センター主催の商談会にも参加し、アドバイスを商品改良に活かして成約に繋げるなど、積極的な姿勢で事業に取り組んでいる。



利用された企業様の声

代表取締役 加藤 光春 氏

SMTSは、普段接することがない全国のバイヤーから直接意見をいただける大変貴重な機会となりました。また、福井県ブースは装飾が明るくて目立ち、複数社参加のため規模が大きく、PRするには単独出展よりも効果があると感じています。お客様目線でのニーズ、価格設定、ディスプレイ、説明の仕方など勉強になることも多く、今後もこのような展示会に参加し、販路拡大につなげてまいります。